

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人 愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ		
所在地	岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じ、年中行事を大切にしています。例えば食事では、お正月にはおせち、七夕そうめん、敬老の日の御膳などを一緒に楽しんでいます。また、春にはお花見、夏には夏祭り、秋は紅葉狩り、冬には鏡餅作り等も行います。コロナ禍のため外出が難しくなっていますが、ドライブを通して四季を感じていただきました。外出が難しくなった方にも楽しんでいただけるように、施設内での活動や行事にも力を入れています。それ以外でも、近所の方との交流が盛んで、頂きもので梅ジュースや干し柿を作り、同法人の特養におすそ分けにも行きました。また、グループホームの広い敷地には畑もあり、利用者様と、同法人の園児と一緒にイモや玉ねぎを栽培しています。収穫の喜びを分かち合います。開設当初から世代間交流に力を入れてきました。外出や面会制限もあり利用者様のストレスも少なくありません。コロナ感染予防に努めながら利用者様が安全、安心でその方らしく過ごせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人の持つ、保育園、地域密着型特別養護老人ホーム等と共に根差したグループホームとして生活にうるおい、また活力を大切にされた暖かい雰囲気づくりに努め、コロナ禍にあっても変らない日々を送っている様子が窺えます。また、社会的に交流の場を持つこと自体に不自由が生じており、今できることを工夫しながらコロナ禍終息後、普通の生活に戻った時のことも考慮しながら入居者、職員の心身の健全に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をしっかりと念頭に置いて、日々のケアに当たるように努力しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた、地域・入居者に愛されるを理念に、誰もが見える場所に掲げ実践に繋げるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為交流は中止していますが、隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共にボランティア、めばえ保育園園児との交流などを日常的に行えるようにしています。	日常的な交流は難しい中、園児が芋掘りの芋を窓越しにみせにきたり、近隣の住民から渋柿をもらい干し柿にするなど、工夫しながら交流している様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共同で一般市民向けに座学を定期開催しています。今年はコロナ禍の為行っていませんが、今後も予定しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染者が急増してから運営推進会議は開催していませんが資料提示にて活動報告を行い、ご家族はもちろん、他事業所からもご意見いただきサービス向上に活かしています。	平日の開催なので、どうしてもご家族の参加が少ないが、電話を掛け参加を募りながらご家族の意見に耳を傾けるよう努めています。	地域・ご家族と親交を深める絶好の機会なので、運営推進会議をもっと親しみやすく参加しやすい会議にしていけることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で会議ができない中、倉敷市介護保険課の担当者の方に連絡相談を行い適切なアドバイスを頂いています。	コロナ禍ならではの感染予防の連絡を受けるなど、日頃から連絡を密に取り適切な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを行っています。毎月会議では身体拘束について確認をし、内部研修、法人全体研修として年2回行っています。職員の意志統一につとめています。	玄関の鍵は防犯上の観点から施錠しています。身体拘束委員会を2か月に1回実施し、言葉かけによる拘束を含め、職員一同共有して日常的な支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて虐待防止の徹底を職員間で話し合うと共に、内部研修、法人全体研修を年2回行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を使い、成年後見人との連携をとった経験があります。法人に倉敷市連島南高齢者支援サブセンターもあり、成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会もあります。内部研修も行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項等説明ししっかりと納得いただけたうえで、契約を行っています。また、入居後も疑問などある場合はその都度対応させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置していると共に、利用者及びご家族が意見や要望を言える関係作りに努め、それらを運営に反映させるようにしています。	面と向かって意見や要望は出てこないで、日常的に何気ない会話を大切に、入居者やご家族の「つぶやき」を拾い集め職員はそれを繁栄に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議等で各職員が発言できる機会を設けると共に、法人として夏・冬年2回法人役員が各職員の面接を行っています。	管理者は普段から、職員の事情を気軽に聞くよう努めています。また、法人全体で働きやすさ、スキルなどを考慮するように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、夏・冬年2回自己評価の実施及び、リーダー級以上の職員による各職員の評価を実施し、各職員のやりがいや目標の確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共同で年2回全体研修会を実施しています。外部講師を招いた研修も開催しており、毎月内部研修も学習出来る機会としてます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム運営推進会議はコロナ禍のため出席できていませんが、情報交換などお互いのサービスの質の向上に努めています。また、地域の福祉施設、医療機関との交流会にも積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の状態、意向等を伺い、信頼関係を築く努力を行っています。ご本人の様子をみながら、入居後、安心して暮せるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い、要望等を伺い、信頼関係を築くように努力しています。入居後も電話や面会時にコミュニケーションを多くとり、ご本人が安心して暮せるように一緒に関われる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にゆっくりお話を伺いながら、その時必要としている支援は何かを考え、新たなサービスのきっかけとしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションなど通して、ご利用者から手順や方法を教えて頂くことも多くあります。生活の中でも出来る事はやって頂き、出来ない事は職員と共に行って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者がご家族との繋がりを大切に思っ て頂けるように、ご家族と連携を取りながら一緒に支えていける関係作りに努めています。ガラス越しにはなりますが、面会の場を 設け話をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通して、ご自宅で馴染みであった方 に来ていただけるようお声掛けする支援など 行っています。ガラス越しではありませんが、 面会して頂いています。	面談者の方はガラス越しにて面談して頂いて います。コロナ感染予防対策を行いつつ、な じみのある人との面談を大切に、関係継続 の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションや行事を通してご利用者同 士が良好な関係を保てるように支援してい ます。2ユニット互いのユニットが自由に行き 来でき、どちらのユニットでもゆっくり過ご せる環境作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に訪ねて頂けるような関係づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者にその都度お伺いし、希望、意向の把握に努めています。また、ユニット会議などで職員間でご利用者本位のサービスが提供できているかなど検討しています。	日々の生活支援の中で職員が気付く、入居者が「嫌がっている」ことなどを観察し、本人本意の思いや意向に近づけるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、ケアマネジャーはじめ関係医療機関や介護事業所から情報提供を頂き、生活の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活や入居後、日頃からご利用者の出来る事、出来ない事等を見極め、生活内の表情や雰囲気・動作等を通してお気持ちを考えつつ検討しています。介護記録に残し職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の意向をもとに、定期的にかンファレンスを行い、現状のニーズに見合った介護計画を作成しています。運営推進会議は開催できず家族が出席する会議の場はありませんが、面会時には現状を伝え意見を必ず聞いています。	日々の生活での気付きや協力医・訪問看護などの協力を得ながら、現状に即した介護計画の作成に努め取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間では申し送りノートを活用し、状況の変化等でケアの差が生じないよう情報の統一を図ると共に介護計画を見直し、日々のケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レクリエーションへの参加など無理強いせず、ご利用者の状況に応じた対応を行なっています。予定外の事でも、できるだけ希望にそった対応をするように心がけます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であり近隣住民や他部署との交流をひかえています、必要な情報交流を行いながら地域資源の把握につとめています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅におられる時のかかりつけ医を希望される方は、ご家族と職員が連携し、受診対応するようにしています。また、訪問診療を利用されている方もおられます。また、家族での受診対応が難しくなった等受診時の対応などの相談を行っております。	かかりつけ医、訪問医療に関わらず入居者の不利益にならないよう、医療連携を密になるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携は密にしています。また、急変時は24時間体制で相談でき、適切なアドバイスを頂くことができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より病院関係者との連携を図っており、入院時は円滑に、また早期に退院出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針とご本人、ご家族の意向の話し合いを持っています。随時、ご本人、ご家族と話し合いながら病院やその他事業所へ結び付けるなどの支援を行っています。	看取りの経験はないが、永く一緒に過ごす入居者やご家族が安心して、納得できる終末期に向けた支援のあり方に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署署員による救急救命講習を行うなど、急変時等に対応した動きがとれるようにしています。ヒヤリハット、事故発生に関しては報告書とともにユニット内会議にても原因や対応についても話し合い検討しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、避難経路や通報装置の使い方などを再確認しています。また、非常時の法人連携も話し合っています。	ハザードマップに基づき身の回りでどんな災害が想定されるか調べて、訓練に取り組んでいます。	これからも、より詳細なシミュレーションを行い、職員一人ひとりが余裕をもって行動できるよう訓練していかなることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの生活暦や性格を把握し、人権・人格を尊重した声掛けや対応をするように心がけ、内部研修また法人全体での年2回の全体研修会も開催しています。	職員一人ひとり、入居者との距離感の取り方、「慣れ」と「親しみ」の線引きの難しさなど人格を尊重した対応に心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でご本人の意思を確認しています。また、ご本人が自分の思いを言いやすい雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はご本人の性格や生活ペースを大切にしながら生活を送って頂いています。また、ご希望があれば出来る限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな服などを一緒に選んだりしています。また、訪問カットで好みの髪型になるように支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	より幅広い食事のニーズに対応する為、多くの食形態に対応しています。また施設の食事だけでなく、外食支援や一緒に調理を楽しむ機会も設けています。ご利用者にもちよつとした、食事準備や盛り付け、後片付けも手伝ってもらっています。	入居者の一人ひとりの嚙下状態に合わせて食事を楽しめるよう、旬の食材を使った食事で季節を感じる事ができるよう取り組んでいる様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事量や水分量をチェックし、意向を伺ったうえで食事形態や水分の種類などをかえ、出来る限り摂って頂くよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや夕食後には義歯消毒をし、清潔に努めています。必要であれば歯科との連携も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のあいまいなご利用者でも、定期的にトイレへの誘導、声掛けを行い、自立支援に努めています。また、一人一人に合った排泄のタイミングや、リハビリパンツ、尿取りパットを活用し、より快適に生活できるよう検討を続けています。	入居者の排泄パターンをみきわめることによって、またしぐさなどを把握し失敗のない排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配ったり、食物繊維を多くとって頂くなど心掛けています。また、牛乳やヨーグルト、適度な運動等で便秘予防に気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の入りたい時間帯に入浴して頂くように可能な限り対応しています。身体状況によってはゆっくりと湯船の中につかることが難しい方も、シャワーや足湯を行なったりして体が芯まで温まるように対応させてもらっています。	入居者が歳を重ね介護度が上がり、職員の努力だけではどうにもならないことがある中、工夫をして入浴を支援している様子が窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅での生活習慣を踏まえ、安心して気持ちよく眠れるような居室環境づくりや、お話を聞くなどの対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用、使用している薬については、全職員が周知出来るよう見やすい場所にファイルを置いたり、情報共有を図っています。変化があればすぐに主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干したたみや調理・片付けなどの出来る事を活かし、多くの役割を持って頂くように心がけています。畑や花壇の世話を通してもやりがいや楽しみを持って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいいときにテラスや玄関先、敷地内に出る機会を持ち外気に触れています。ちょっとした散歩、買い物などの日常的な外出支援にも力を入れています。コロナ禍の為、現在はドライブに出かけています。行きたい場所にも対応します。	コロナ禍で外出しない生活が当たり前にならないようウッドデッキに出たり、家庭菜園を楽しめるように努め、外気浴を大切にされた支援に取り組んでいます。	コロナ禍での意欲低下を危惧しながら、一人ひとりの職員が意識し、入居者の希望を聞きながらレクリエーションを計画し引き続き取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にグループホームにて小口現金を預かり、そこから支出しています。パンやヤクルトの訪問販売を依頼しています。外出して買い物ということが現状難しいため、欲しいものの希望があれば職員が買い物代行を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されるときは、電話にて話をさせて頂いています。また、手紙の投函代行も行っていきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの外回りには花や野菜を植え、フロアは季節のものをご利用者と一緒に作り飾っています。また、温度や光などは職員が管理をし、随時対応しています。懐かしい音楽をかけたりもしています。トイレは場所をわかりやすいように表示しています。	TVを観る人、一人を好む人、数人でゲームを楽しむ人、それぞれが自然に「自分の場所」で寛いでいて、居心地の良い共用空間に馴染んでいる様子が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレまで近い距離を希望される方、テレビが見やすい席を希望される方、歩行器の移動で座りやすい席を希望される方、仲良しの方と一緒に席を希望される方等その方、その方の状態に合わせた席の配置も都度検討しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具等も置き、自宅と変わらない環境づくりによって混乱なく、落ち着いて過ごされるような工夫をしています。絵手紙や貼り絵などで居室を飾ることに喜びを持たれる方もいます。配偶者の写真を飾り、お供えを日課としている方もおられます。お一人お一人の思いの詰まった空間を大切にしています。	転倒などの安全に配慮された居室です。自室の掃除を職員と一緒にする人もあり、部屋やベッドも衛生的に居心地よく過ごせるよう取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の生活動作に合わせ、安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や押し車の置き場所にも配慮しています。		